# 雪丸

# ホンダ HS555

## 取扱説明書

# お買いあげありがとう ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店または下記の**〈ご相談窓口〉**にお気軽にお申しつけください。

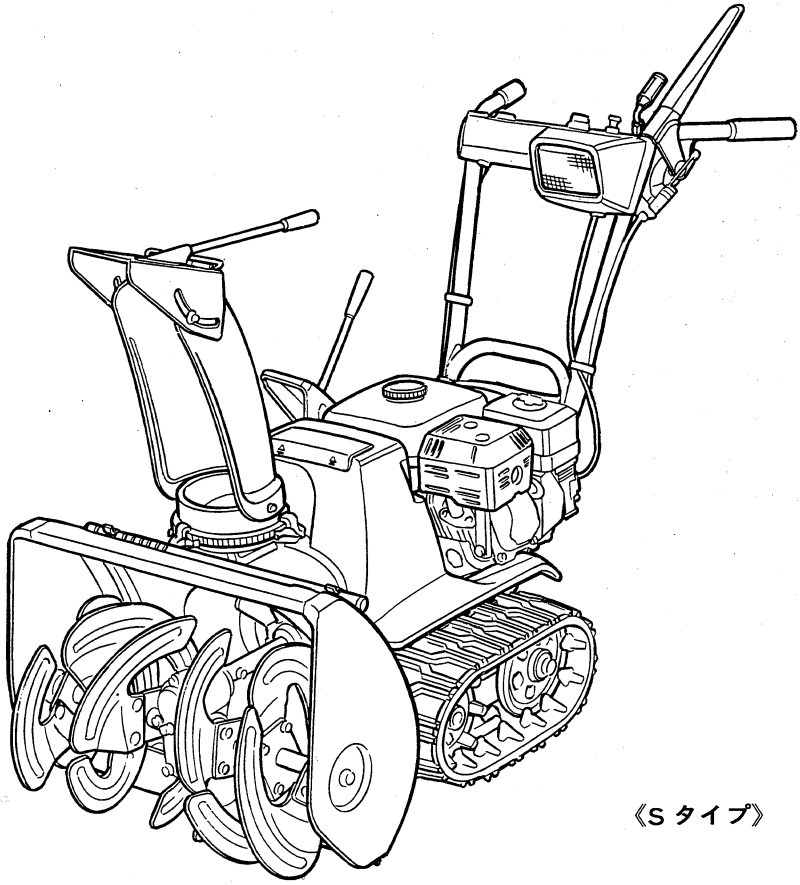
**〈ご　相　談　窓　口〉**

| 名　　称 | 電話番号 | 郵便番号 | 所　　在　　地 |
|---|---|---|---|
| 本田技研工業株式会社<br>お客様相談室 | 03 (423) 4211 | 107 | 東京都港区南青山2—1—1 |
| 本田技研工業株式会社<br>お客様相談室　北海道 | 011(781)2929 | 065 | 北海道札幌市東区本町２条10—2—29 |
| 本田技研工業株式会社<br>お客様相談室　仙　　台 | 022(288)6561 | 983 | 宮城県仙台市六丁の目西町1—10 |
| 本田技研工業株式会社<br>お客様相談室　名古屋 | 052(363)2929 | 454 | 愛知県名古屋市中川区五月通4—22 |
| 本田技研工業株式会社<br>お客様相談室　大　　阪 | 0720(29)7755 | 572 | 大阪府寝屋川市池田中町2—12 |
| 本田技研工業株式会社<br>お客様相談室　九　　州 | 092(962)2466 | 811-01 | 福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599 |

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

この取扱説明書は、ホンダ HS 555 除雪機の取り扱いをまとめたものです。

安全、快適にお使いいただくために正しい取り扱いをしなければなりません。ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。



《S タイプ》

なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

# 目　　次


安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8

エンジン スイッチ ……10
燃料コック レバー ……10
チョーク レバー、チョーク ノブ ……11
始動グリップ ……11
エンジン回転調整レバー ……12
変速レバー ……12
シュータ ハンドル ……13
移動クラッチ レバー ……13
除雪クラッチ レバー ……14
作業灯スイッチ(S タイプのみ) ……14
高さ調整ボルト ……15
スキッド、スクレーパ ……15
ハンドル高さ調整ボルト ……16
雪落とし棒 ……16
バッテリ(S タイプのみ) ……17

エンジンをかける前に点検しましょう ……18

ガソリンの点検 ……18
エンジン オイルの点検 ……19

エンジンのかけかた ……20

リコイル スタータによる始動 ……20
セル スタータによる始動(S タイプのみ) ……23

運転操作のしかた ……26

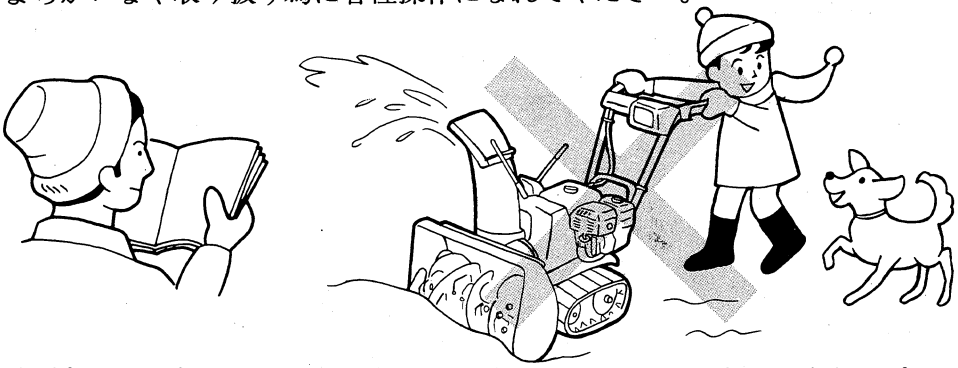
高さ、スキッド、スクレーパの調整 ……26
始動 ……27
運転操作 ……27
除雪のしかた ……30

エンジンの止めかた ……33
定期手入れを行いましょう ……35
日常点検 ……35
定期点検 ……36
やさしい点検・整備 ……37
同梱工具と付属部品 ……37
エンジン オイルの交換 ……38
点火プラグの清掃・調整 ……39
クローラ張り調整 ……40
除雪部の点検 ……41
ヒューズについて(Sタイプのみ) ……42
長期間使用しない時の手入れ ……43
故障のときは ……46
主要諸元 ……47
製品受領書
保証書

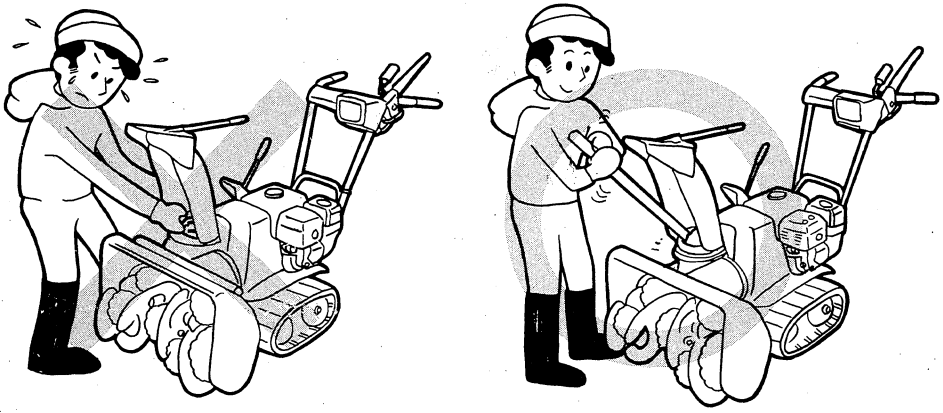
## 安全にお使いいただくために　これだけは

HS 555 は正しく取り扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な除雪作業のために次のことを必ずお守りください。

・本機は私有地でご使用下さい。
・この取扱説明書を事前に読み、正しい取り扱い方法を十分御理解のうえ自分で操作してください。
・本機を子供には絶対操作させないでください。
・まちがいなく取り扱う為に各種操作になれてください。



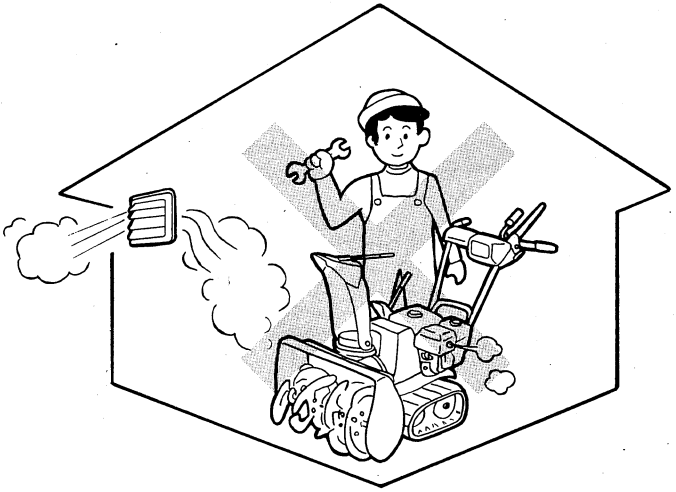
・除雪部および投雪口に雪がつまった場合は、エンジンを停止し、点火プラグ キャップを取り外し、各回転部が停止してから必ず備え付けの雪落とし棒でつまった雪を取り除いてください。



# ぜ ひ 守 り ま し ょ う

・雪が降る前に除雪しようとする区域を事前に十分点検し、石、棒、板、針金などの障害物を取り除いてください。
・屋根に積った雪や急斜面の除雪は行わないでください。
・除雪部分や投雪口に顔や手足を近づけないでください。
・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。





**●作業を始める前に**

・本機の操作は必ずハンドルを持ち後部に位置してください。

・作業をする時は、防寒用の服装で身仕度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。

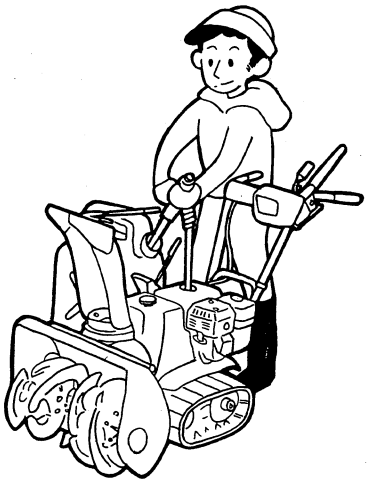
・砂利道等の除雪は石の飛び出し等非常に危険を伴いますので除雪しないでください。

・視界の悪い場所や、夜間十分な照明のない場所での使用は危険ですから行わないでください。

・仕業点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理を完全にしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。

・ガソリン補給時、必ずエンジンを停止してください。〈火気厳禁〉

（・エンジン、消音器(マフラ等)は冷えていますか。
・ガソリンはこぼさないように注意してください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。）



**●作業中の注意**

・共同作業は雪のためスリップし思わぬ事故を招く事があります。絶対に行わないでください。

・除雪部は回転しているので大変危険です。手、足等を絶対に近づけないようにしてください。また、人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。

・投雪口には顔や手を絶対に近づけないでください。

・投雪方向を直接人等に向けたり、窓ガラスに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はそのたび適切に行ってください。

・除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、けっして走らないでください。

・除雪中障害物に当った時はすぐにエンジンを止め、点火プラグ キャップを取り外し、回転部が停止してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

・除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。

・斜面での方向転換には十分注意してください。

**●作業が終ったら**

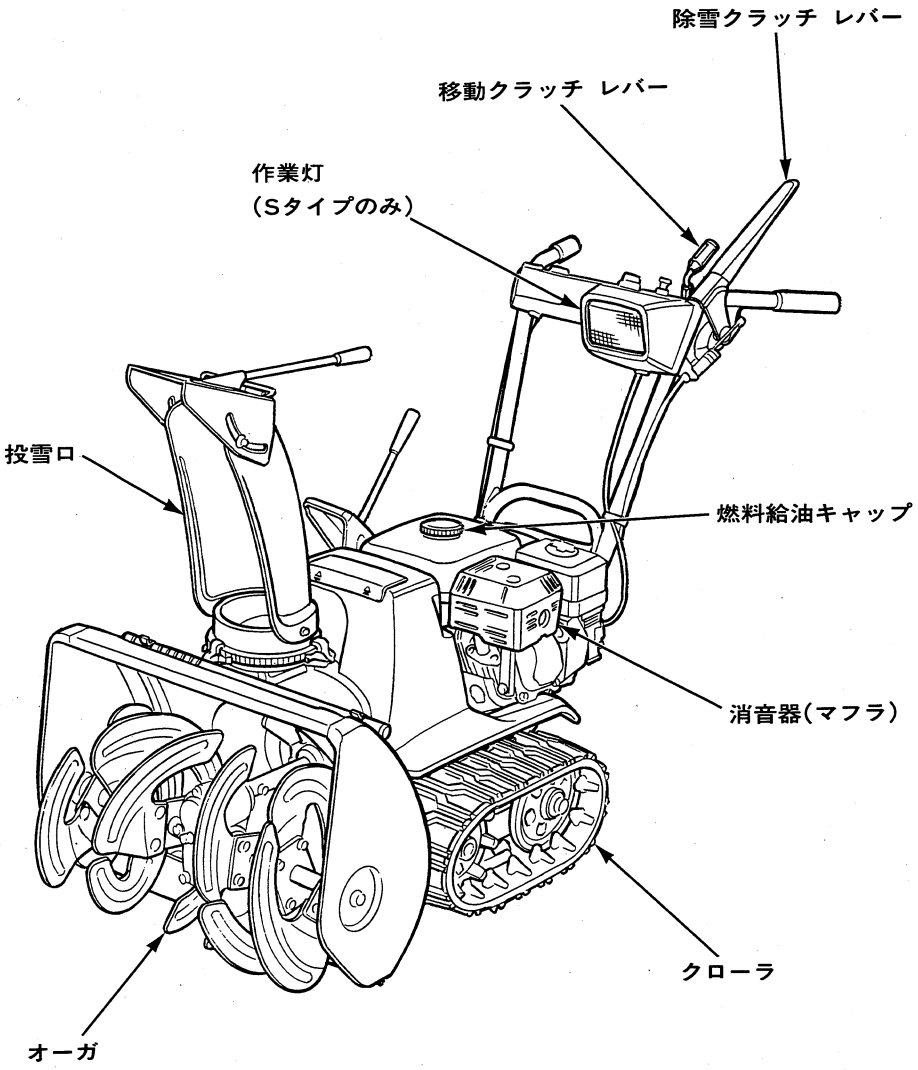
・長期保管前にはタンク内のガソリンを抜きとり火気の恐れのある所には保管しないでください。また抜いたガソリンは引火性があり爆発の危険があります。

・駐車機構がありませんので坂道での駐車はしないでください。

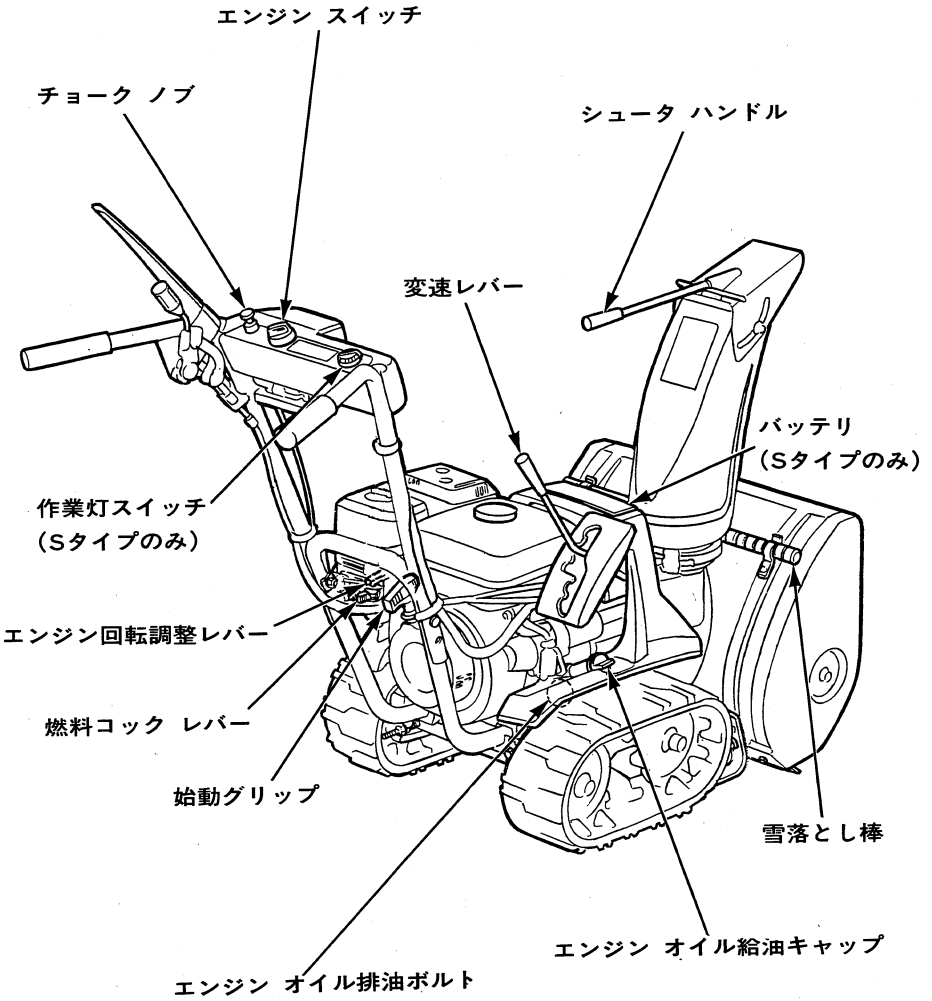
・作業後は、除雪部の雪を取り除いて格納してください。
次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

・本機から離れる時には、必ずエンジンを止め、エンジン スイッチ キー(Sタイプのみ)を外してください。

# 各部の名称と取り


除雪クラッチ レバー
移動クラッチ レバー
作業灯
（Sタイプのみ）
投雪口
燃料給油キャップ
消音器（マフラ）
クローラ
オーガ

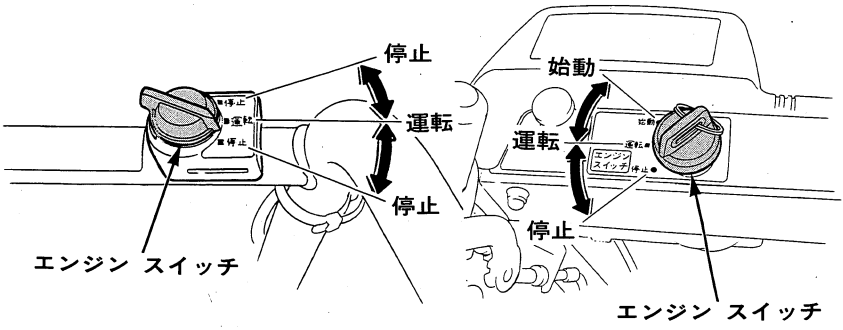
# 扱いをおぼえましょう


エンジン スイッチ
チョーク ノブ
シュータ ハンドル
変速レバー
バッテリ
(Sタイプのみ)
作業灯スイッチ
(Sタイプのみ)
エンジン回転調整レバー
燃料コック レバー
始動グリップ
雪落とし棒
エンジン オイル給油キャップ
エンジン オイル排油ボルト

## エンジン スイッチ

エンジンの始動、運転、停止をする時に操作します。

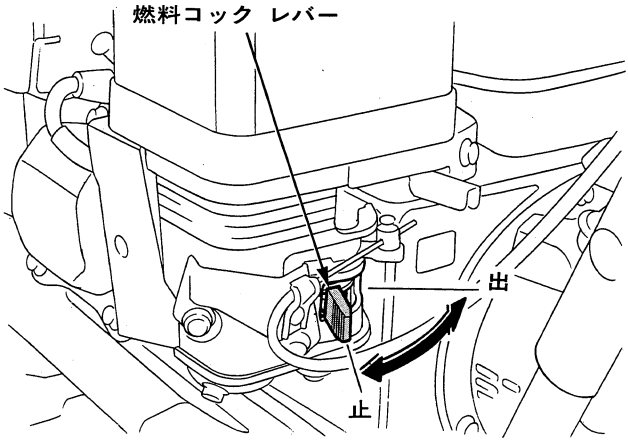
（Sタイプ）




## 燃料コック レバー

燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。

操作は確実に〝止〟〝出〟の位置に合わせます。

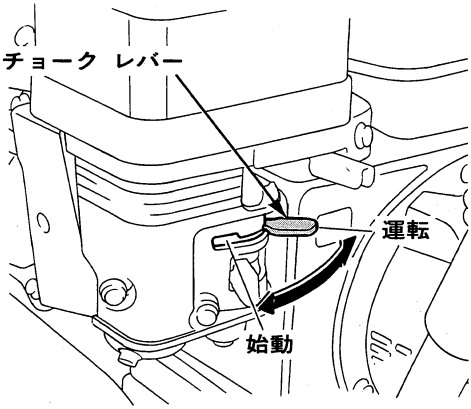


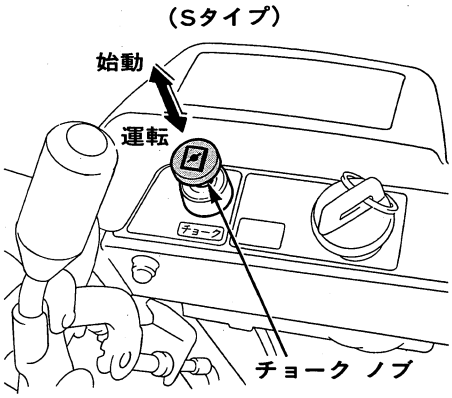

注意

・運搬時、保管時および点検整備時に本機を傾むける時はレバーを〝止〟の位置に合わせてください。〝止〟にしないと燃料がもれることがあります。

## チョーク レバー、チョーク ノブ

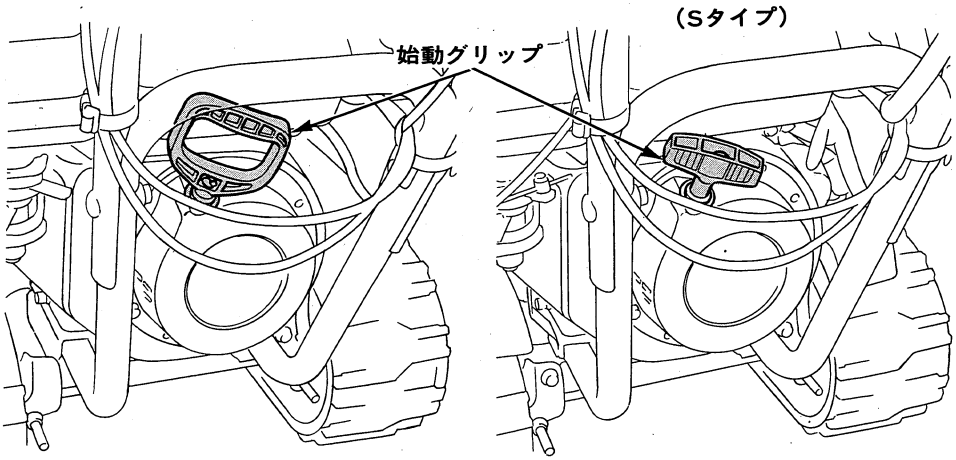
エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。




## 始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。

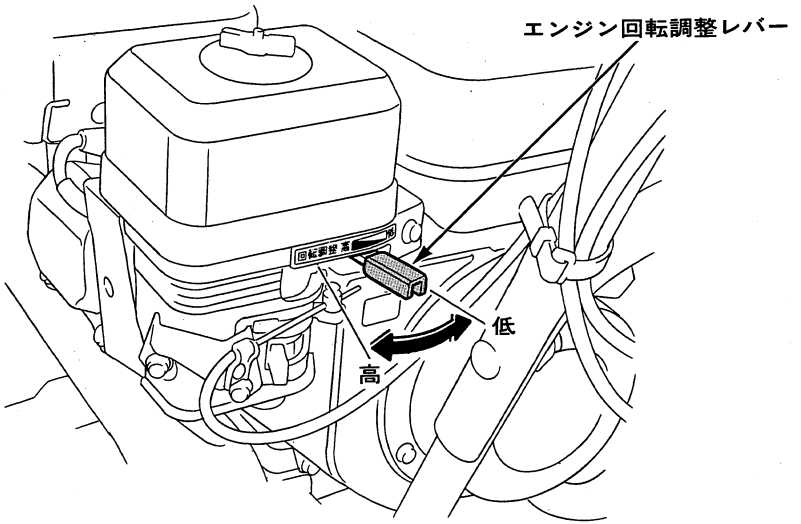



注意

- 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。
  始動装置を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。
  エンジンに悪影響をあたえます。

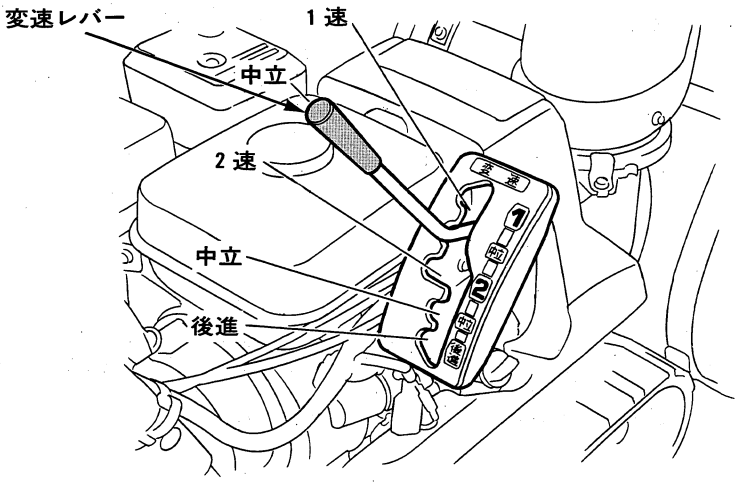
## エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整する時に操作します。通常は〝高〟の位置でご使用ください。



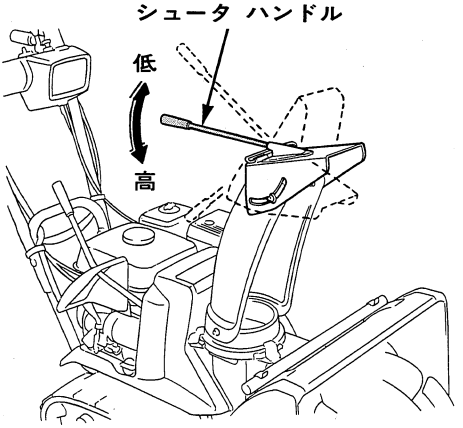

## 変速レバー

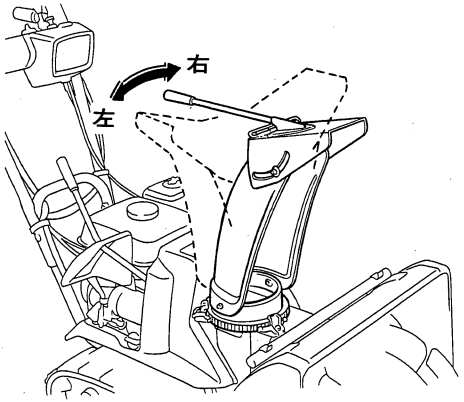
除雪機を前進、後進するために操作します。
前進２段、後進１段、〝中立〟になっています。



## シュータ ハンドル

ハンドルを操作することにより、投雪距離と方向を変えることができます。

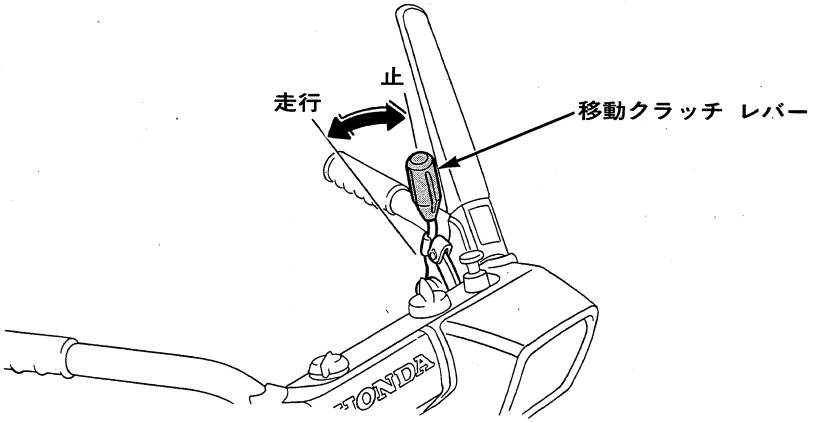



注意 ・投雪距離や方向を変える時には人や窓ガラス等に注意して行ってください。

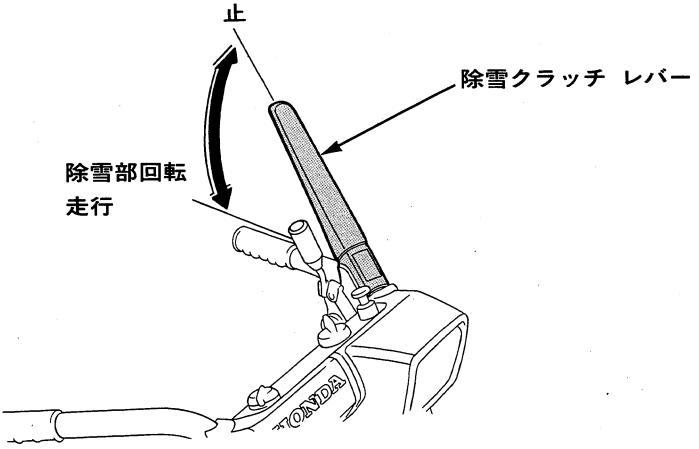
## 移動クラッチ レバー

レバーを手前にいっぱい引くと走行し、はなすと止まります。



## 除雪クラッチ レバー

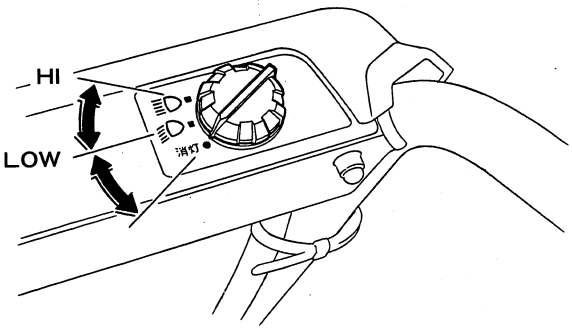
除雪クラッチ レバーは移動クラッチ レバーと連動しており、握ると除雪部が回転し同時に走行します。はなすと除雪部が停止し同時に走行も停止します。




## 作業灯スイッチ(S タイプのみ)

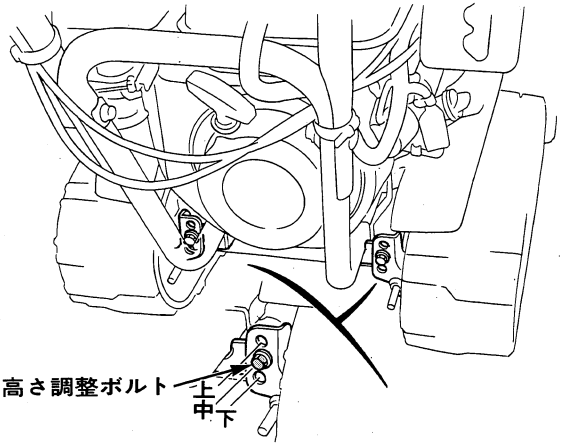
作業灯を点灯、消灯する時に操作します。

・作業灯を使用する場合は、エンジンをかけてから使用してください。
エンジン停止中は点灯しません。



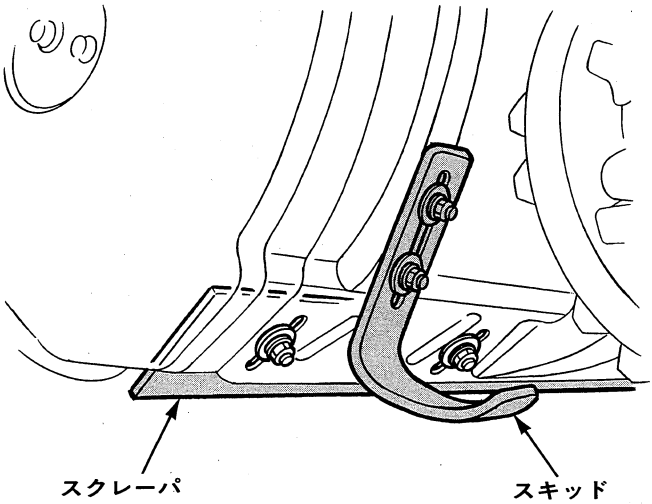
## 高さ調整ボルト

除雪部の高さを変える時に操作します。
調整は 26 頁を参照してください。



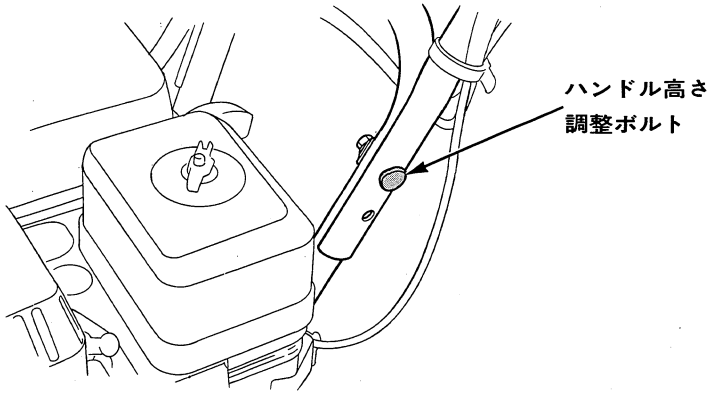

## スキッド、スクレーパ

除雪する路面の状態に合わせて、路面との高さを調整します。調整は 26 頁を参照してください。



## ハンドル高さ調整ボルト

作業者に合わせて2段階にハンドルの高さを調整することができます。
調整後は確実にナットを締付けてください。

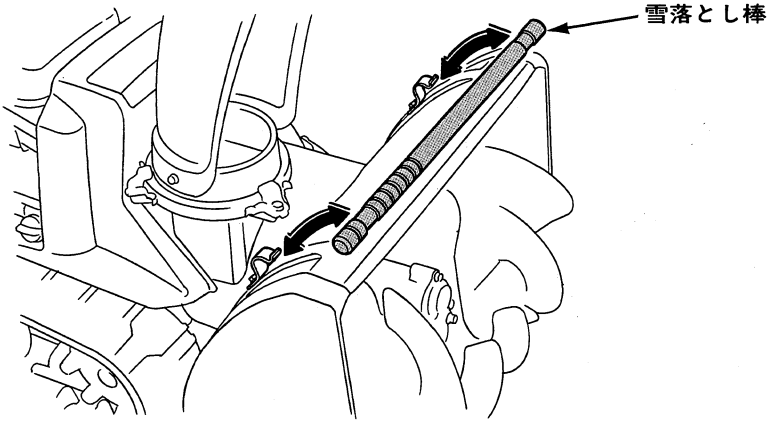



## 雪落とし棒

雪が除雪部や投雪口に詰ったときに使用します。

注意 ・雪落としを行う場合は、エンジンを停止し、点火プラグ キャップを取り外し、各回転部が停止してから行ってください。

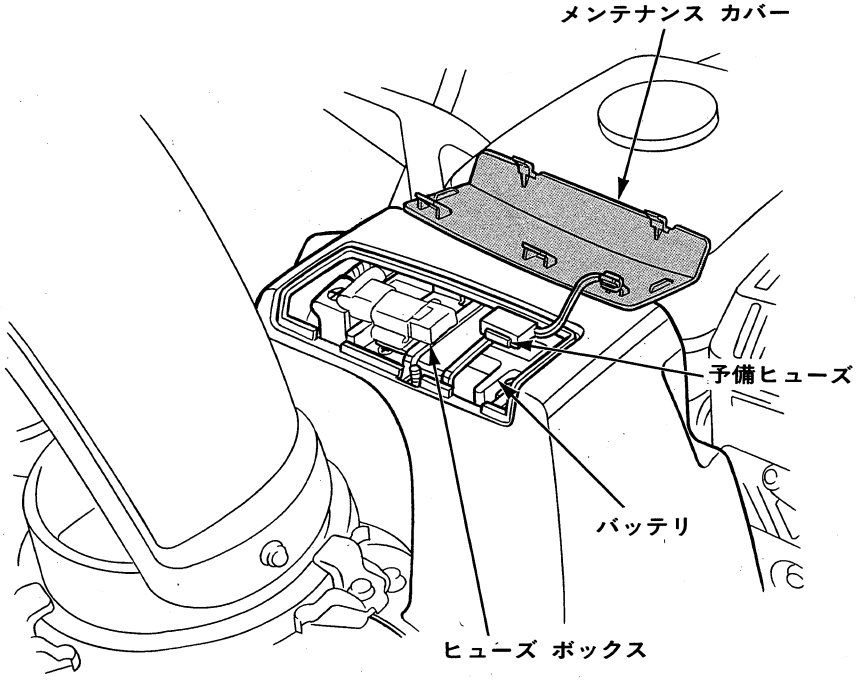
雪落とし棒使用後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付位置にセットしてください。



## バッテリ(S タイプのみ)

このバッテリは密閉式です。液洩れや補水の心配がないメンテナンス不要バッテリです。

注意 長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は補充電を行ってください。保管中、6 ヵ月に一度別売指定充電器または市販の充電器で補充電を行ってください。(45 頁参照)



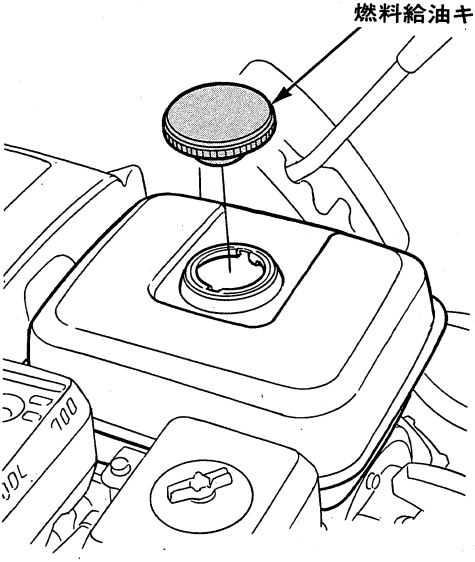
# エンジンをかける前に点検しましょう

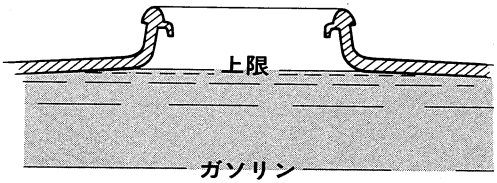
★点検は平坦な場所でエンジンを水平にして点火プラグ キャップを外して、エンジンをとめて行ってください。

## ガソリンの点検

### 点　検

燃料給油キャップを外し、ガソリンがあるか点検します。少ない時には図の位置まで補給してください。




### 補　給

使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)

タンク容量：3.5 ℓ

・給油キャップを外し、図の位置(上限)まで補給します。

・補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

注意

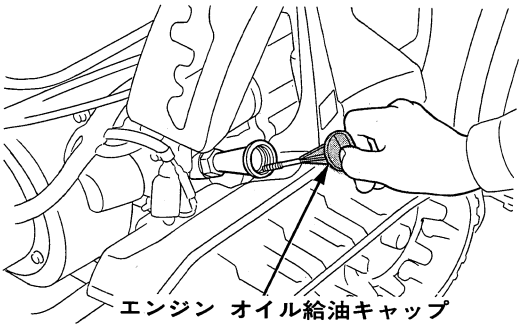
・火気厳禁
・必ずエンジンをとめて補給してください。
・万一口元よりあふれた時は、こぼれたガソリンを布切れ等で速やかに拭きとってください。
・降雪時ガソリンの補給を行う時は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。
燃料タンク内に雪等が入るとエンジン不調の原因になります。

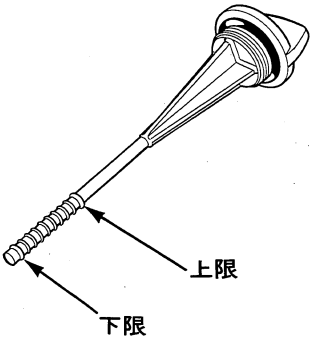
## エンジン オイルの点検

### 点　検

標準タイプ……オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

Sタイプ……オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検してください。




### 補　給

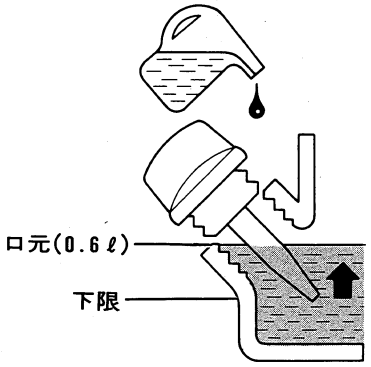
・油面が下限に近いときには新しいオイルを口元、または上限まで補給します。

・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 38 頁参照）

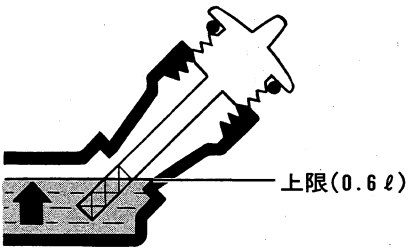
推奨オイル：SAE 5 W－30 または API 分類 SE 級相当のエンジン オイル

オイル容量：0.6 ℓ

・キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがもれます。



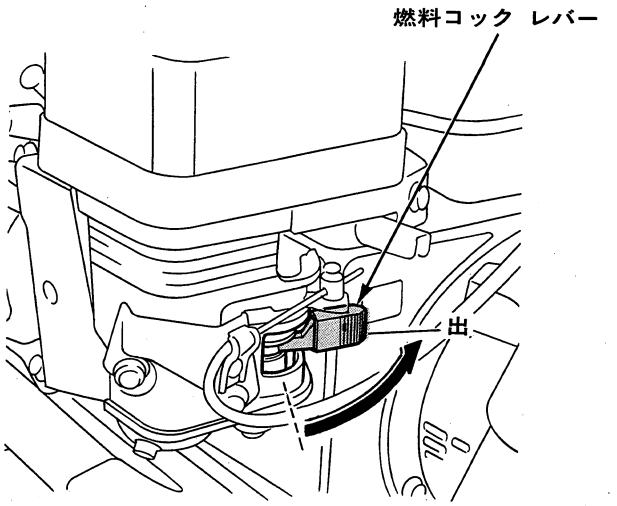

(Sタイプ)



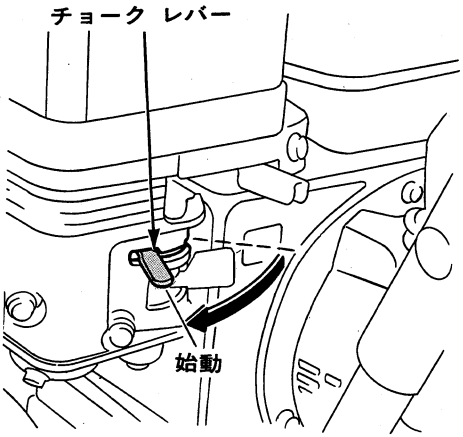
# エンジンのかけかた

## リコイル スタータによる始動

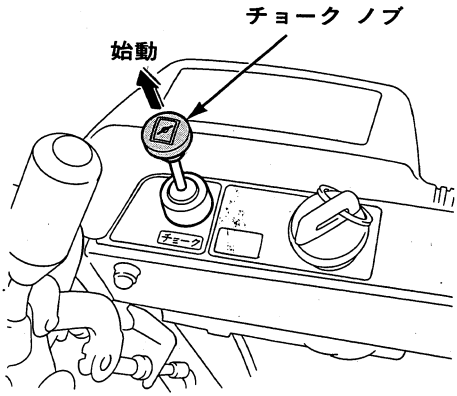
1.燃料コック レバーを〝出〟に合わせます。




2.チョーク レバーを〝始動〟に合わせます。
Sタイプはいっぱいに引いてください。

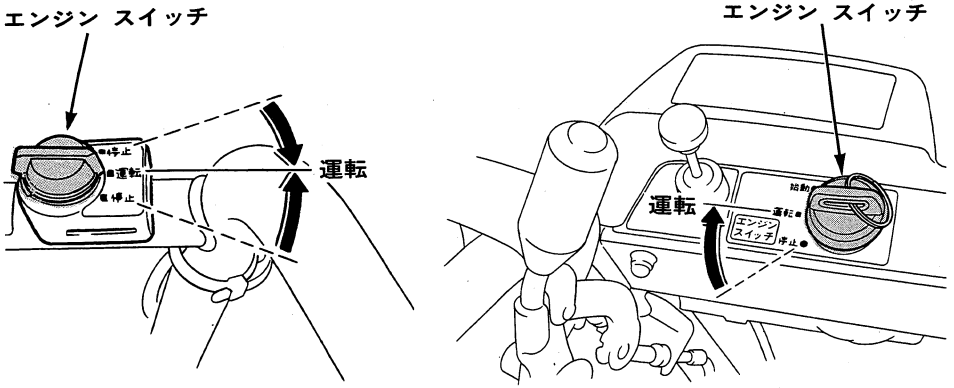



(Sタイプ)



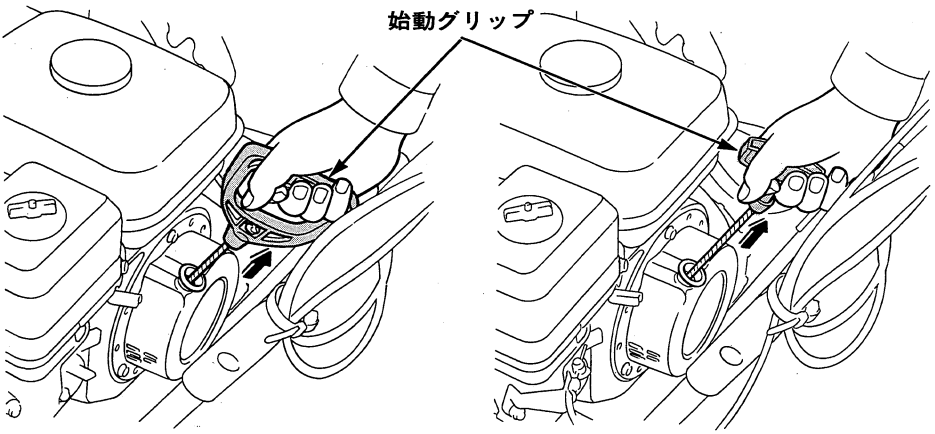
3.エンジン スイッチを"運転"にあわせます。

(Sタイプ)




4.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

(Sタイプ)

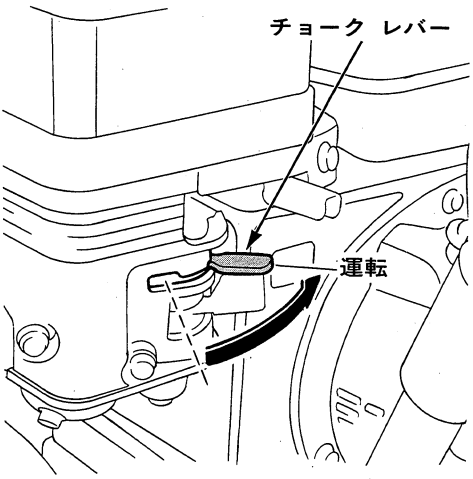


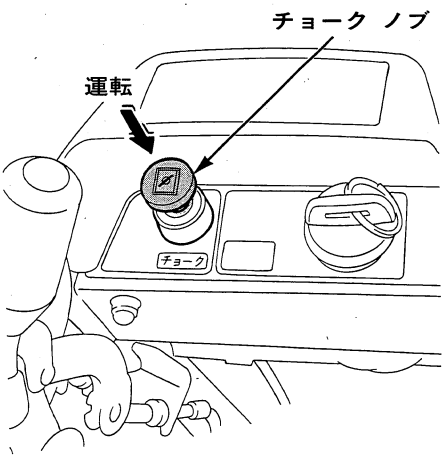

注意

- 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。始動装置を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

5.始動後２～３分間暖気運転を行い、エンジン回転が安定したらチョークレバーを徐々に戻して〝運転〟の位置にしてください。Ｓタイプは押し戻してください。

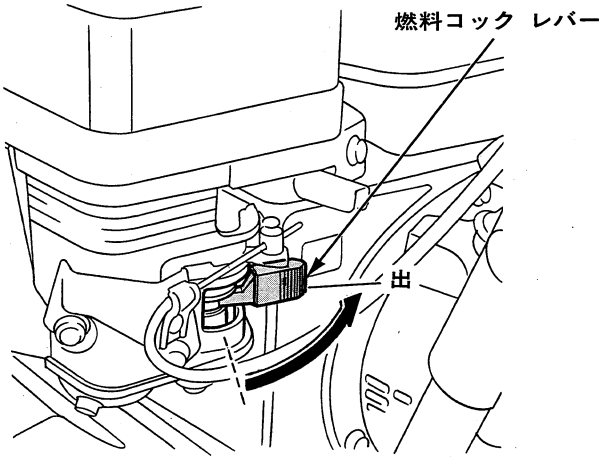
（Sタイプ）



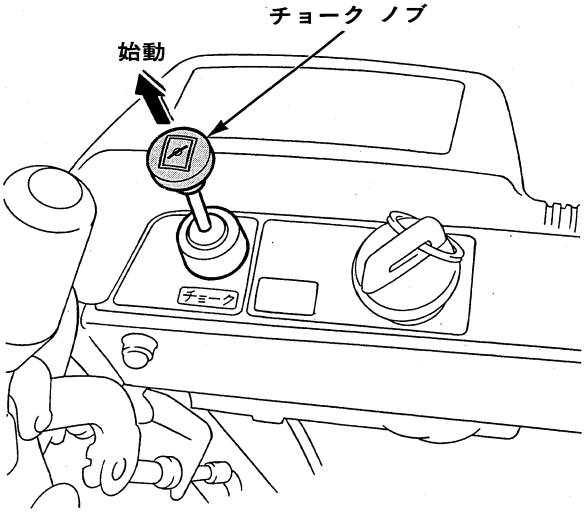



## セル スタータによる始動(S タイプのみ)

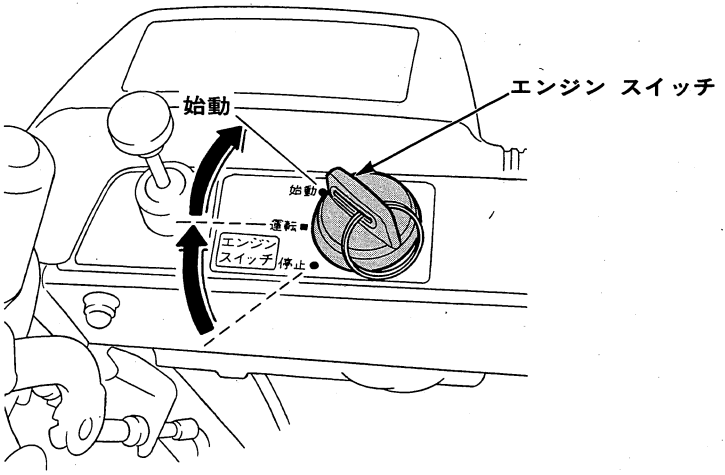
1.燃料コック レバーを〝出〟に合わせます。



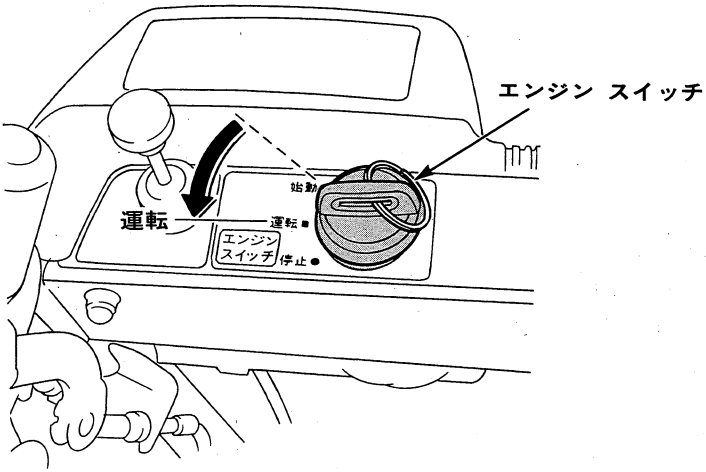

2.チョーク ノブをいっぱいに引いてください。



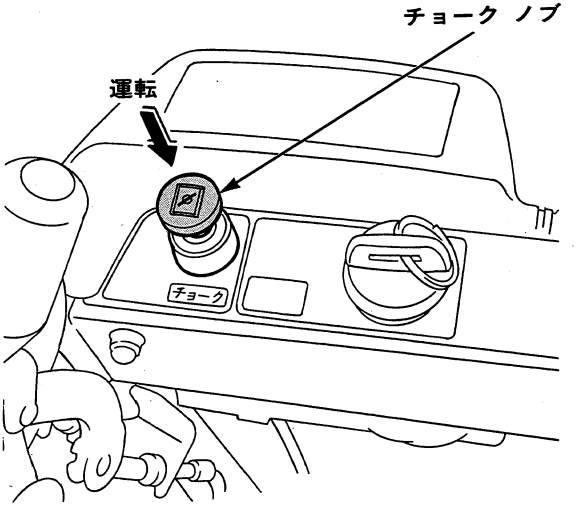
3.エンジン スイッチを"始動"にします。




4.エンジンが始動したらエンジン スイッチを"運転"の位置にもどします。



5.始動後２～３分間暖気運転を行います。
チョーク ノブを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョーク ノブを徐々に押し戻します。



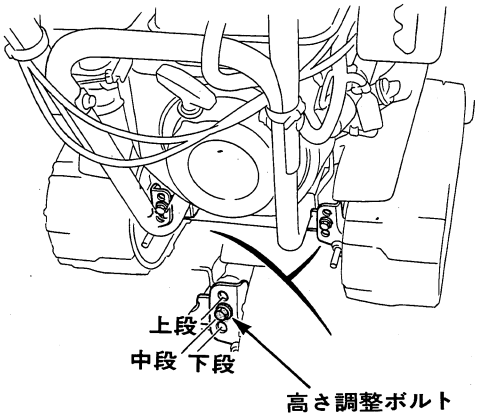

・もしバッテリ上りなどでセル スタータが使用出来ない場合は、リコイル スタータによる始動の手順に従ってください。
(20 頁～22 頁参照)

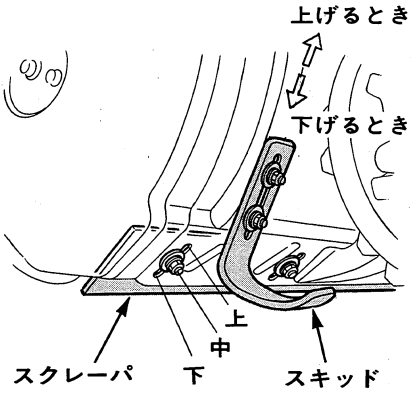
# 運転操作のしかた

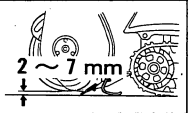
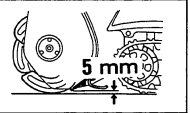
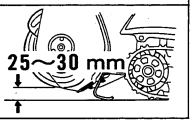
除雪をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みになり除雪作業に取り掛かってください。
(1.の調整はエンジンを停止して行ってください。)

## 1.高さ、スキッド、スクレーパの調整

除雪する路面の状態に合わせて下表を目安としてそれぞれ調整してください。(調整は左右同じ位置にしてください。)
調整後はナット、ボルトを確実に締付けてください。



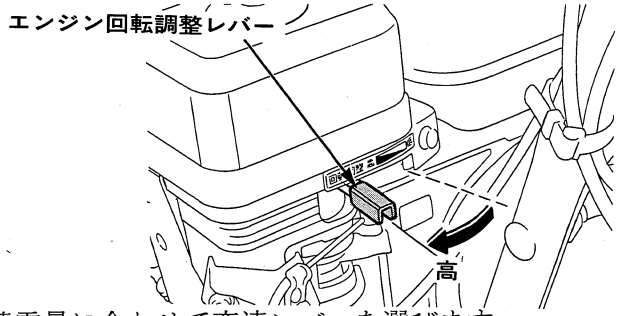

| 作業の種類 | 高さ調整 | スクレーパ調整 | スキッド調整 | |
|---|---|---|---|---|
| 通常作業 | 中　段 | 中程の位置 | 中程の位置 |  |
| 固雪除雪 | 上　段 | 上げた位置 | 上げた位置 |  |
| じゃり道除雪<br>(凸凹道) | 下　段 | 上げた位置 | 下げた位置 |  |

## 2.始動

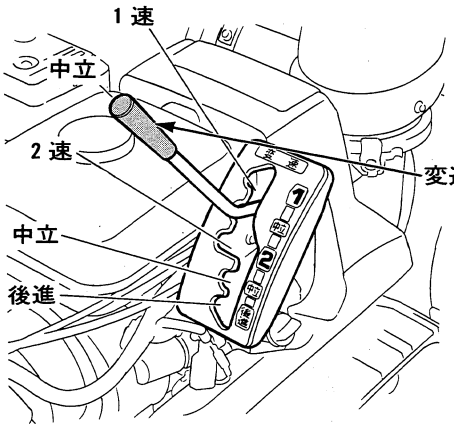
始動については 20 頁と 23 頁を参照してください。

## 3.運転操作

1.エンジン回転調整レバーを〝高〟にあわせます。




2.雪質、積雪量に合わせて変速レバーを選びます。




1 速…重い雪や積雪量の多い場合

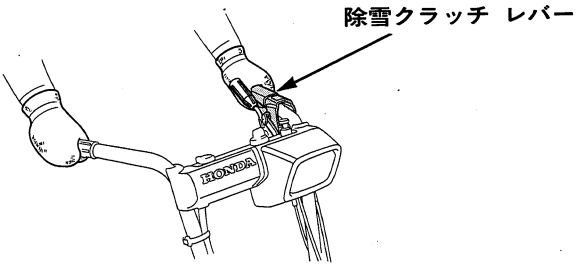
2 速…新雪で積雪量が少ない場合

…移動の場合

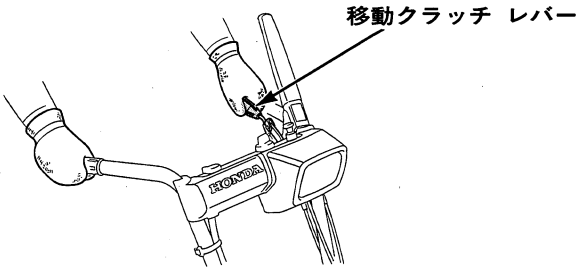
注意

- 移動のみ(前、後進)を行う場合は、必ず移動クラッチレバーだけの単独操作を行ってください。除雪クラッチ レバーで行うと、除雪部が回転し大変危険です。
- 変速レバーは必ず切りかき部に入れてください。
- 走行中に変速しないでください。変速する場合は移動クラッチ レバーまたは除雪クラッチ レバーを一旦離してから行ってください。

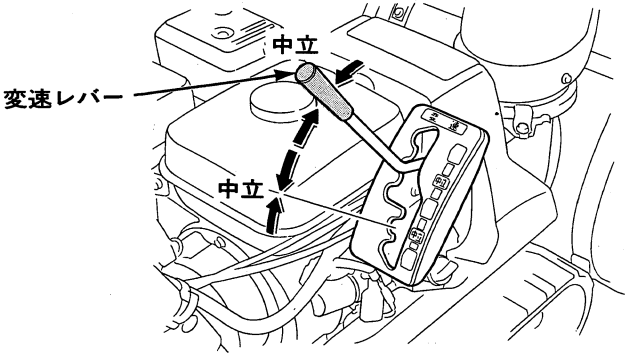
3.除雪クラッチ レバーを握ると除雪部が回転し同時に走行します。




・移動のみを行う場合は移動クラッチ レバーのみで単独操作してください。

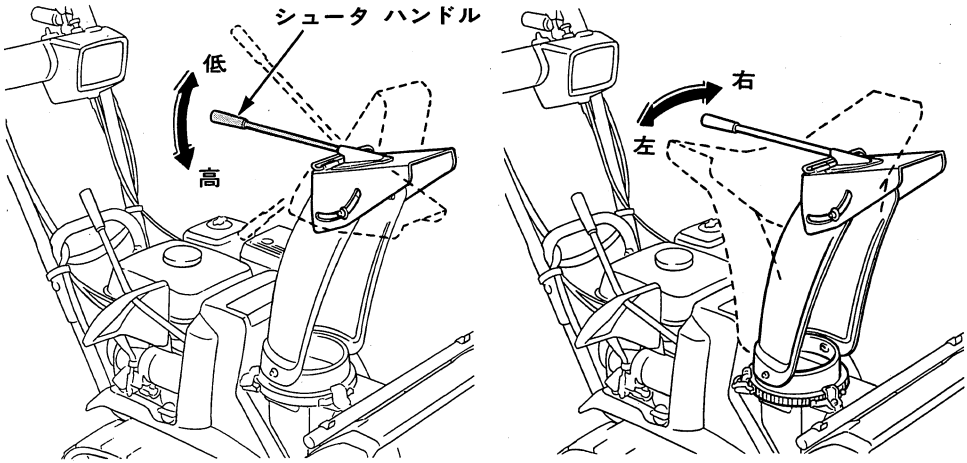



・除雪部のみを回転させる場合は、変速レバーを“中立”の位置にしてから除雪クラッチ レバーを握ってください。



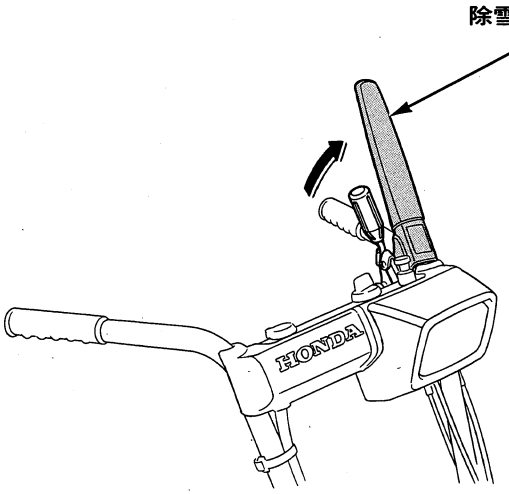
4.シュータ ハンドルを操作する。

投雪したい方向、距離に合わせて調整してください。




注意 ・投雪距離や方向を変える時には人や窓ガラス等に注意して行ってください。

5.投雪および走行を解除する場合は除雪クラッチ レバーから手を離してください。

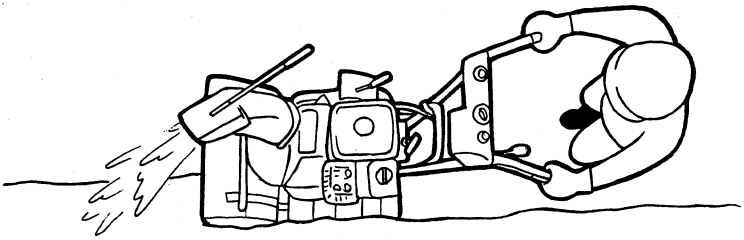


## 4.除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。
次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

**●除雪幅を狭くする方法**

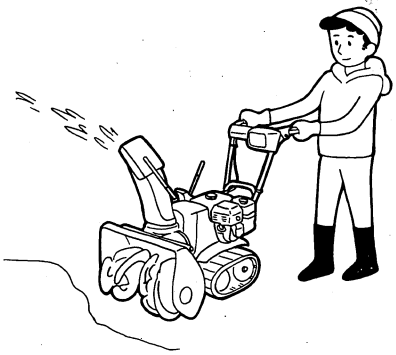
深い雪や、固くなったりした雪の場合は１速で除雪してください。またこのような場合除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



**●断続除雪の方法**

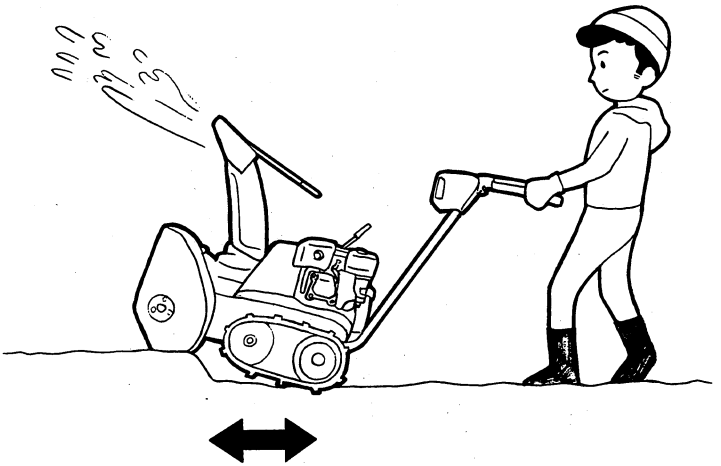
深い雪や重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合は次の方法で行ってください。

1.除雪クラッチ レバーを“止”にしてください。
2.変速レバーを“中立”にしてください。
3.除雪クラッチ レバーを握りオーガのみを回転させてください。
4.エンジン回転が回復しましたら除雪クラッチ レバーを“止”にしてください。
5.再び変速操作をしてから除雪クラッチ レバーを握ってください。



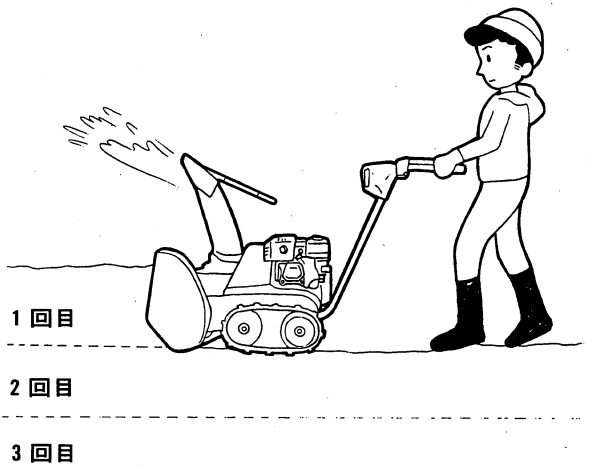
**●前後進除雪の方法**

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



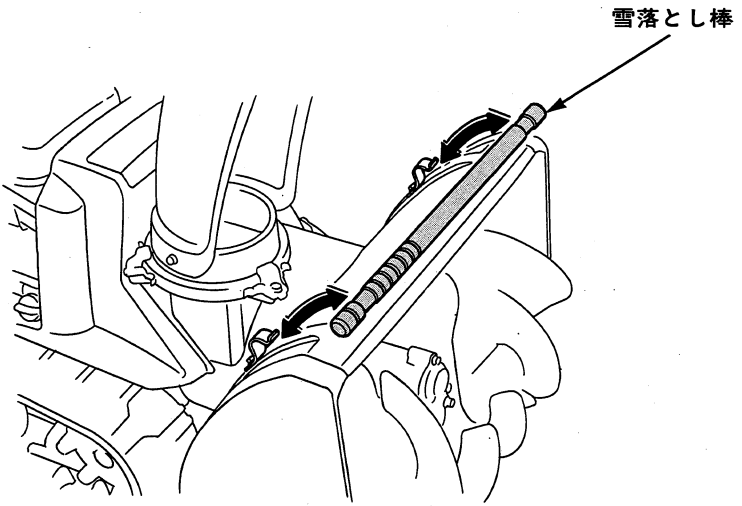
**●段切除雪の方法**

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪してください。



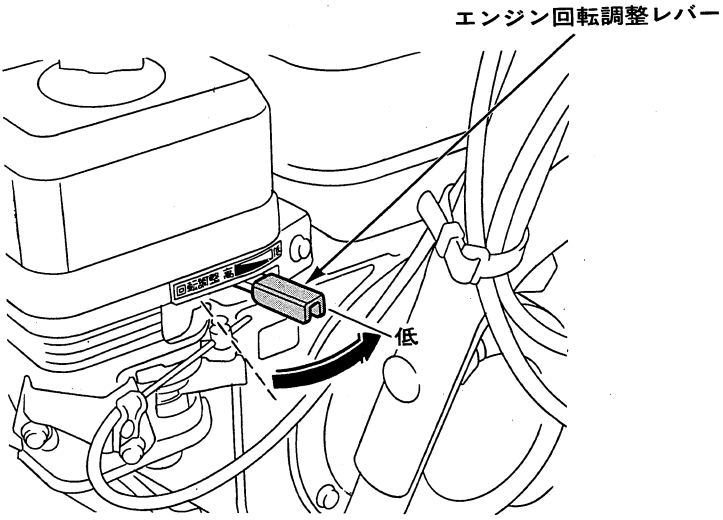
注意

・投雪口に雪がつまった場合は、エンジンを停止し、点火プラグ キャップを取り外し、各回転部が停止した事を確認してから、必ず備え付けの雪落とし棒でつまった雪を取り除いてください。

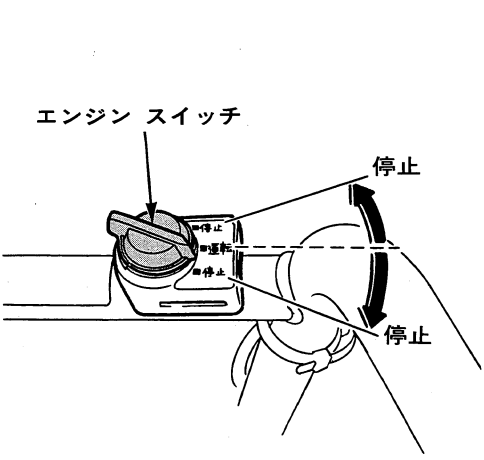


# エンジンの止めかた

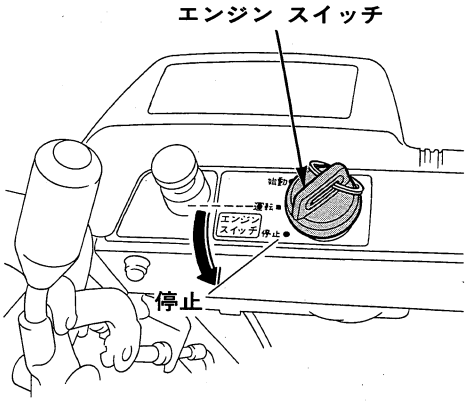
1.エンジン回転調整レバーを〝低〟に戻します。



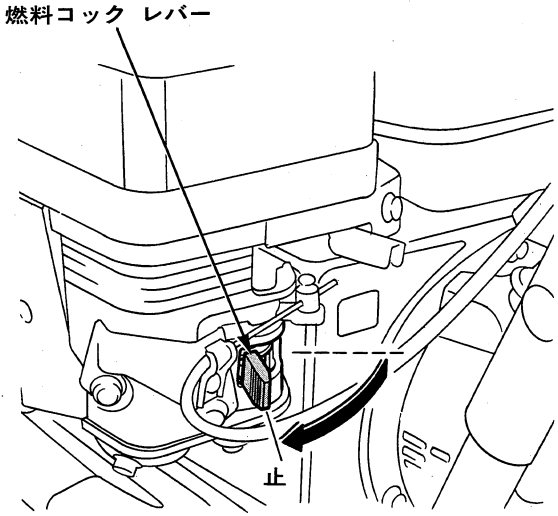

2.エンジン スイッチを〝停止〟にします。




（S タイプ）



3.燃料コック レバーを〝止〟に合わせます。

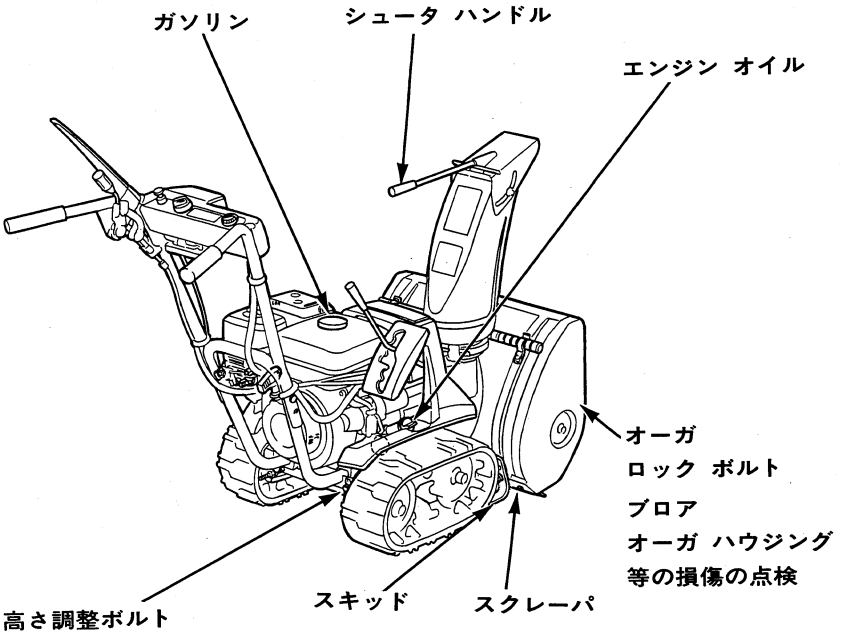


# 定期手入れを行いましょう

## 日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン オイル……{規定量入っているか。／漏れはないか。}
- ガソリン……残量
- 各部の締付け……ハンドルのがたはないか。
- 高さ調整ボルト、スキッド、スクレーパ……高さ調整(26 頁参照)
- シュータ ハンドル……作動確認
- オーガ、ロック ボルト、ブロア、オーガ ハウジング等の損傷については、特に点検を行ってください。
- 異常個所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



# 定期点検

| 点検項目＼点検時間 | | 作業前点検 | 初回 20時間目 | 除雪時期 初めの点検 | （毎年） 終りの点検 | 5年毎点検 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| エンジン オイル | 点検<br>交換 | ○ | <br>○ | <br>○ | | |
| 点火プラグ | 点検<br>清掃 | | | ○ | | |
| クローラ | 張り調整 | | | ○ | | |
| 除雪部(オーガ ブロワ オーガハウジング ロックボルト) | 点検 | | | ○ | | |
| ボルト、ナット類 | 増締め | | | ○ | | |
| 燃料ろ過カップ | 清掃 | | | | ○ | |
| 気化器燃料・燃料タンク燃料 | 抜き | | | | ○ | |
| 格納時の各部防錆塗油 | | | | | ○ | |
| 除雪クラッチ ワイヤ<br>移動クラッチ ワイヤ | 点検<br>調整 | | | ○※ | | |
| オーガ クラッチ シュー | 点検 | | | | | ○※ |
| バッテリ(Sタイプのみ) | 補充電 | | | ○※ | ○※ | |
| 燃料チューブ | 交換 | | | 3年毎 | ※ | |
| 吸入・排気弁すき間 | 点検<br>調整 | | | | | ○※ |
| 燃料タンク、燃料ろ過網 | 清掃 | | | | | ○※ |

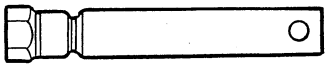
○印のついた項目は消耗部品であり使用条件により交換時期がかわります。機能が正常でなくなった時、交換してください。

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

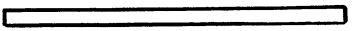
## 同梱工具と付属部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

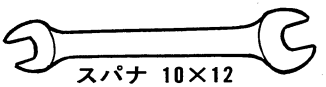
同梱工具



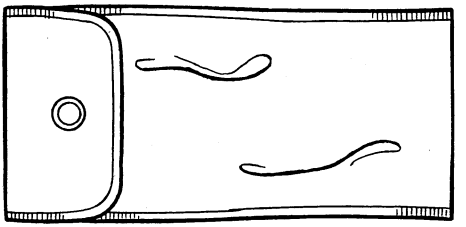
プラグ レンチ



プラグ レンチ ハンドル

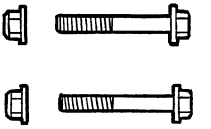


スパナ 10×12



ツール バッグ

付属部品

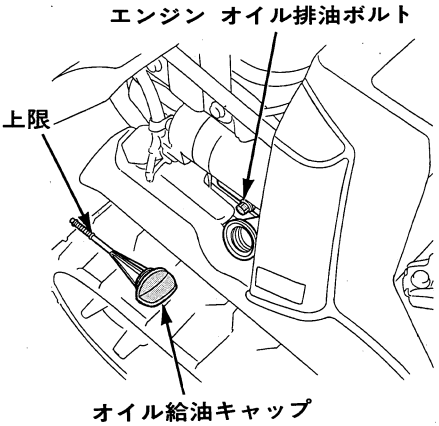


ボルト 6×32
ロック ナット 6 mm

## エンジン オイルの交換

**(初回 20 時間目にも交換してください。)**

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。




**《交換時期》**

年一回初めの点検

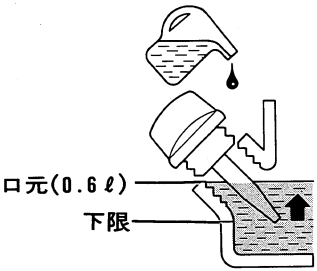
**《推奨オイル》**

SAE5W－30または API 分類 SE 級相当のエンジンオイル

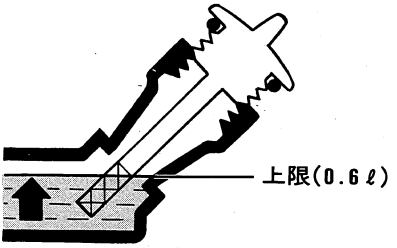
**《規定量》** 0.6 ℓ

**《交換のしかた》**

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルをぬきます。
2. オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締めつけます。
3. 新しいエンジン オイルを口元または上限まで注入します。
4. 注入後キャップを確実に締めつけます。




(Sタイプ)




注意

・エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。
・オイルを抜く時は燃料コック レバーを必ず〝止〟にしてください。燃料コック レバーを〝止〟にしないと気化器から燃料がもれることがあります。

## 点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

**《清掃時期》**

年一回初めの点検

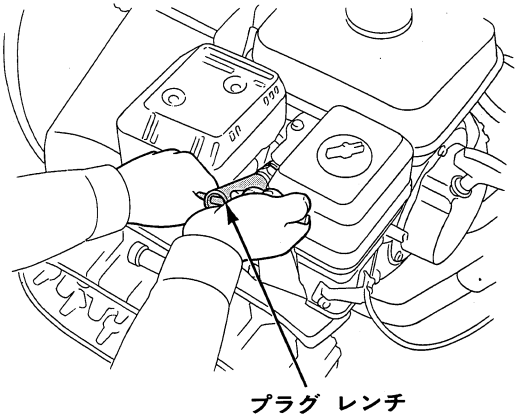
**《清掃のしかた》**

1.プラグ キャップを取り外してください。

2.プラグ レンチ(同梱工具)で点火プラグを取り外します。

3.プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

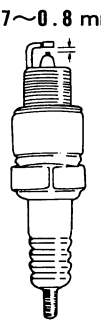
・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。




**《調　整》**

**〈調整のしかた〉**

側方電極を曲げて火花すきまをはがき3枚(0.7～0.8 mm)に調整します。




**《指定プラグ》**

BP5ES(NGK)

W16EP—U(ND)

注意

・指定以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
・点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

## クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

**<点検のしかた>**

クローラを強く(約 15 kg)押した時たるみが 25～30 mm になっているか点検します。

**<調整のしかた>**

1.テンション ボルトのナット 2 コをゆるめて調整してください。

外側のナットを右に回わすと→クローラは張ります。

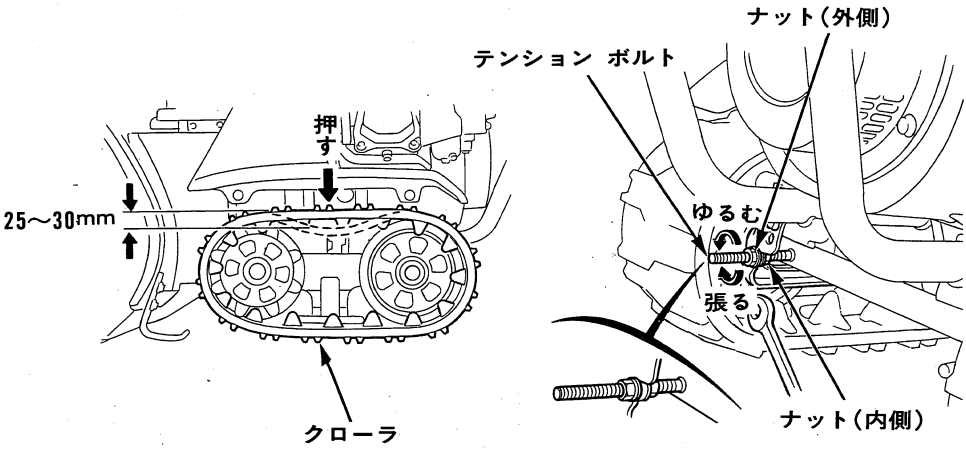
左に回わすと→クローラはゆるみます。

2.たるみが規定量になるように調整してください。

3.調整後確実にナット(内、外側)を締付けてください。

4.左右同じ方法で点検、調整してください。

注意 ・クローラ ゴムが凍結している時は正しい張り調整ができません。必ず凍結を取り除いてから調整してください。

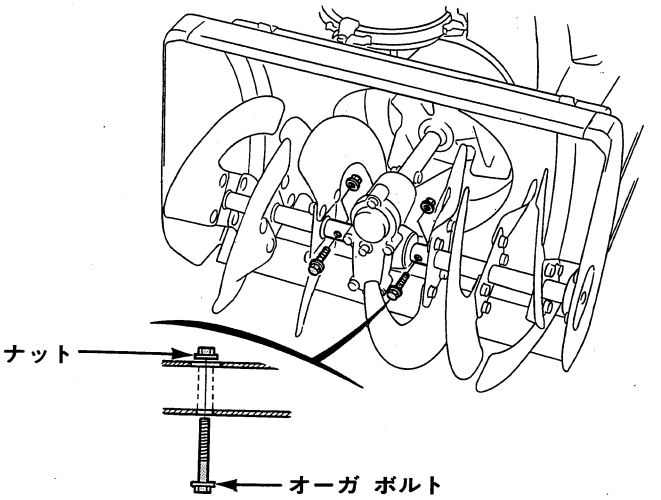


## 除雪部の点検

オーガ、オーガ ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。
オーガ ボルトのゆるみ、折れを点検します。
もし折れている場合は下記の手順で同梱されているオーガ ボルトと交換してください。

**ボルトの交換方法**

1.本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2.除雪クラッチ レバーを〝止〟にしてください。
3.変速レバーを〝中立〟にしてください。
4.エンジン スイッチを〝停止〟にして、点火プラグ キャップを外し各回転部が停止している事を確認してください。
5.オーガ ブロワの凍結または異物(石、棒、針金等)を取り除きます。
6.除雪部を点検してください。
7.折れたボルトを取り除き、新しいボルトと交換し、確実に締め付けてください。



## ヒューズについて(S タイプのみ)

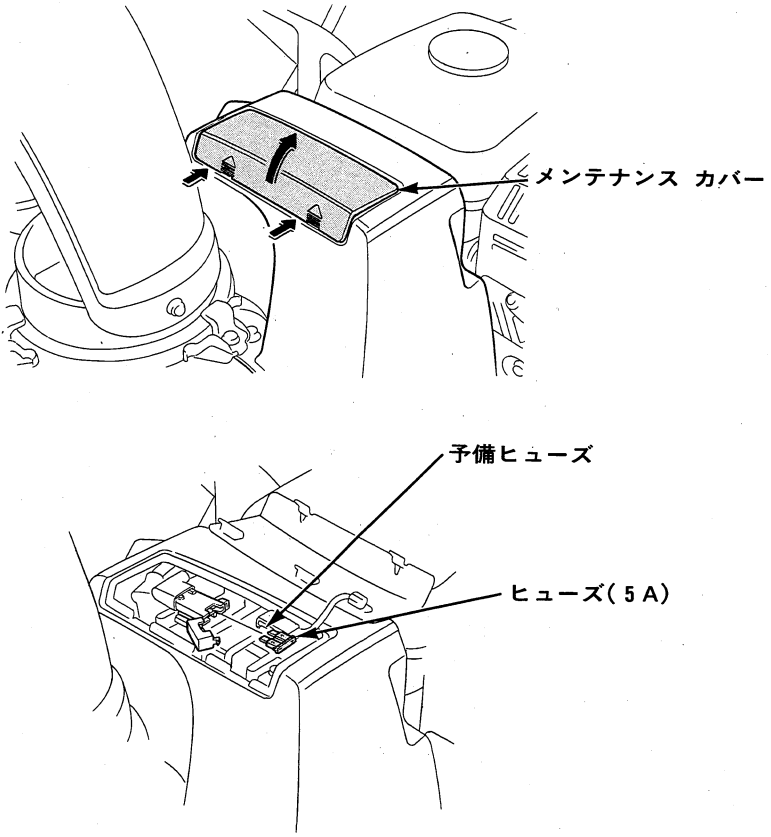
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れる恐れがあります。

注意 ・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

**《交換のしかた》**

①メンテナンス カバーを開けます。

②図のようにヒューズを交換します

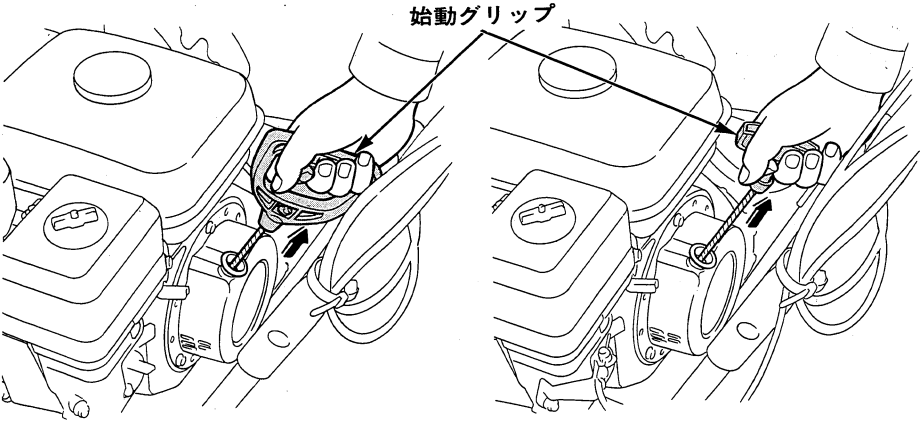


# 長期間使用しない時の手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管する時は､次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

**1.始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。**

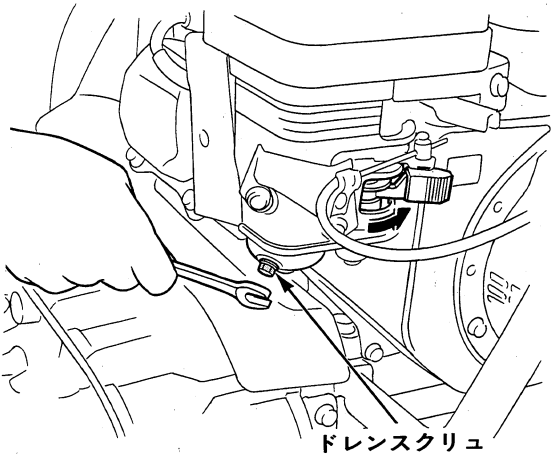
（Sタイプ）




**2.燃料タンク、気化器(キャブレータ)のガソリンをぬきます。**

**〈ぬきかた〉**

1.燃料コックレバーを〝出〟に合わせます。
2.気化器のドレン スクリュをゆるめてガソリンを容器に受けます。
3.完全にぬけたらドレンスクリュを確実に締めます。
4.燃料コックレバーを〝止〟にします。



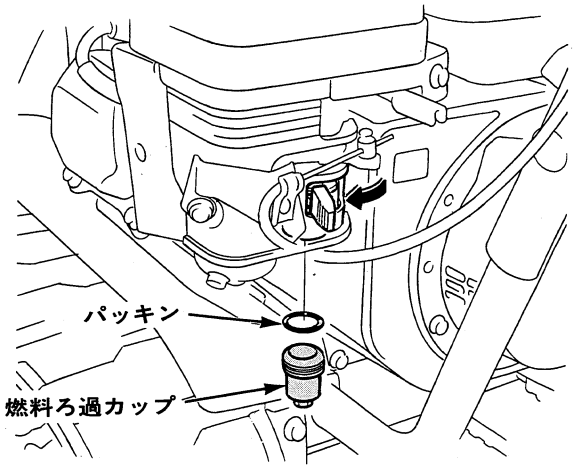

注意
・燃料をぬくときは火気厳禁。
・ぬいた燃料は十分に注意して保管してください。

### 3.燃料ろ過カップの清掃

1.カップを外し洗油で洗浄します。

2.パッキン、カップを取り付け確実に締めつけます。

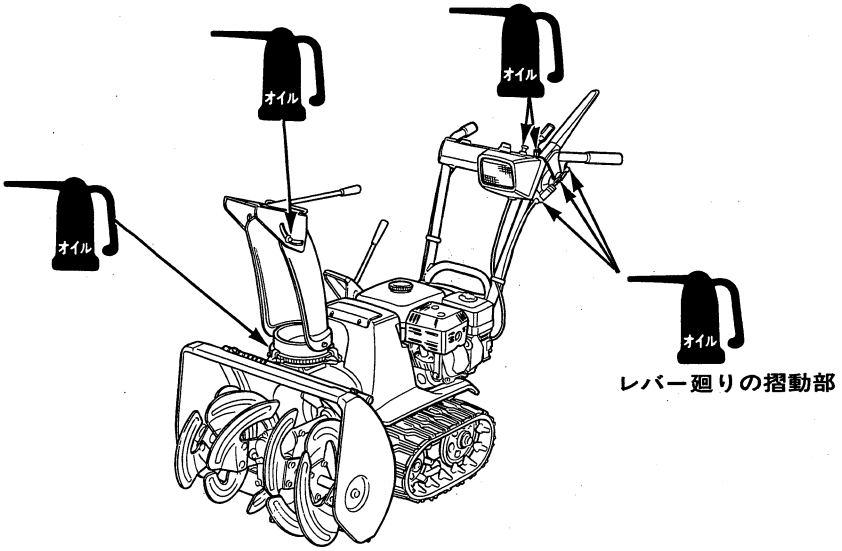
注意 火気厳禁




### 4.S タイプはバッテリ端子を外してください。

### 5.保管時の給油箇所

以下の個所にオイルを注油してください。



## 6.バッテリの手入れ（S タイプのみ）

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は 6 ヵ月に一度補充電を行ってください。

充電器は別売指定充電器(お買いあげ販売店へお申しつけください)または市販の充電器をご使用ください。

**補充電のしかた**

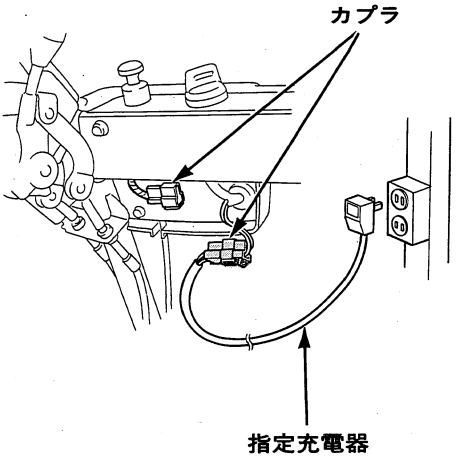
**指定充電器の場合**

①カプラを取り外してください。(青色)

②充電器のリード線カプラをオス側カプラに接続してください。

③充電時間：12 時間～20 時間

④補充電後は必ずカプラを元の位置に結合してください。




注意
・カプラが外れたままではセルモータは回わりません。

**市販充電器の場合**

○バッテリは本機より取り外して補充電を行ってください。

○バッテリの配線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、はずす時は⊖側からはずしてください。

○充電時間：1.2 A で約 5 時間(標準)

○端子のゆるみ、腐触は接触不良の原因となります。ゆるんでいる時は確実に締付けてください。端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。

注意
・バッテリを取扱う時はショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着した時は、すぐ多量の水ですくなくとも 5 分間以上洗浄し、専門医の診断をただちに受けてください。

# 故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。

**始動しないときは次の点を確かめましょう。**

・ガソリンはありますか？

・燃料コック　レバーは〝**出**〟の位置になっていますか？

・オイルは規定量ありますか？

・点火プラグから火花が出ますか？

プラグ　キャップを外し点火プラグを取り外して、プラグ　キャップに取付け、プラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ　キャップ以外には触れないでください。)エンジン　スイッチを〝**運転**〟にして、始動グリップを強く引きます。この時、プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。この点検をする前に、シリンダやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはぼろきれで完全に拭きとってから行ってください。

注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

・始動方法は、取扱説明どおりですか？

**少し時間をおいて**
**もう一度確めましょう**

# 主　要　諸　元

| 名　　称 | ホンダ　HS555 |
|---|---|
| 型　　式 | SAA |

エ　ン　ジ　ン

| 名　　称 | ホンダエンジン GX140 |
|---|---|
| 最　高　出　力 | 5.5HP/4200r.p.m |
| 排　　気　　量 | 144cm³ |
| 内　径　×　行　程 | 64×45mm |
| 始　動　方　式 | リコイル式……標準タイプ |
| | セル及びリコイル併用 …S(セル付)タイプ |
| 点　火　方　式 | トランジスタ点火方式 |
| オ　イ　ル　容　量 | 0.6ℓ |
| 燃料タンク容量 | 3.5ℓ |
| 点　火　プ　ラ　グ | BP5ES(NGK)，W16EP—U(ND) |

フ　レ　ー　ム

| 全　　長 | 1400mm |
|---|---|
| 全　　幅 | 550mm |
| 全　　高 | 955mm |
| 乾　燥　重　量 | 64kg ……標準タイプ |
| | 73kg……S(セル付)タイプ |
| 除　雪　幅 | 550mm |
| 除　雪　高 | 420mm |
| 投　雪　距　離 | 最大14m(雪質および投雪方向により異なります。) |

注意．諸元は改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

# メ　モ

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30743602
00X30-743-6020
客
ホサ
Ⓝ20008710